

## 4-9 伊豆半島におけるラドン観測 (VII) Radon Observations in the Izu Peninsula (VII)

東京大学 理学部  
Faculty of Science, The University of Tokyo

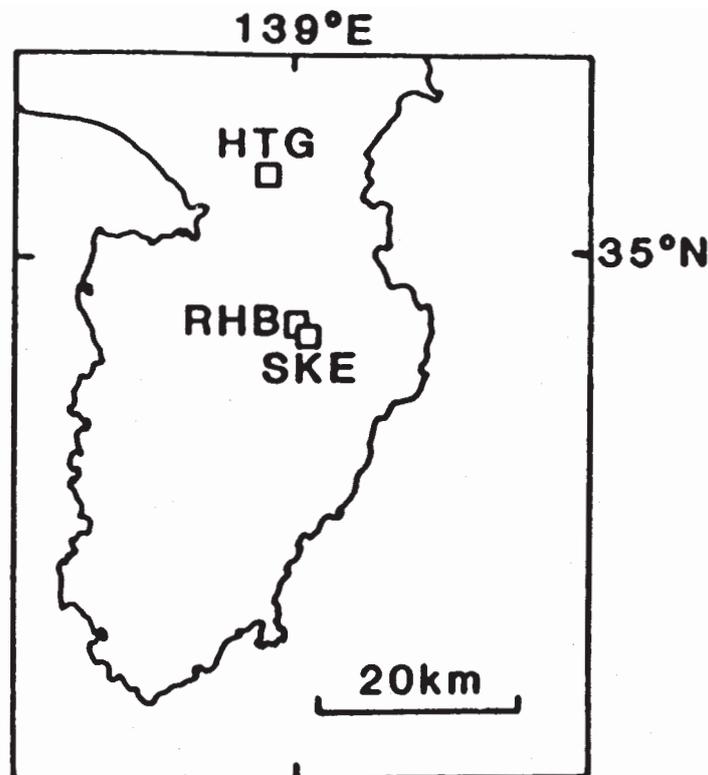
前報<sup>1)</sup>にひきつづき、伊豆半島における地下水中のラドン濃度の連続観測結果(1987年11月-1988年11月)を報告する。

観測点は、第1図に示す函南 (HTG)、中伊豆第1 (SKE)、中伊豆第2 (RHB) の3点である。第2図は各観測点における連続観測の記録で、1時間毎のラドン濃度(積算値)の24点移動平均値を、この期間の平均値に対する相対値で示したものである。なお、HTGにおける観測は、井戸の改修のため、1988年6月5日以降中断している。

これら3つの観測点でのラドン濃度の平均値は、前回報告した値とよく一致している。SKEにおいては、不規則な短周期の変動が冬に大きく、夏に小さい傾向にある。また、長い周期の変動(年周変化)が小さいというこの地域の特徴は今回も引き続いてみられる。

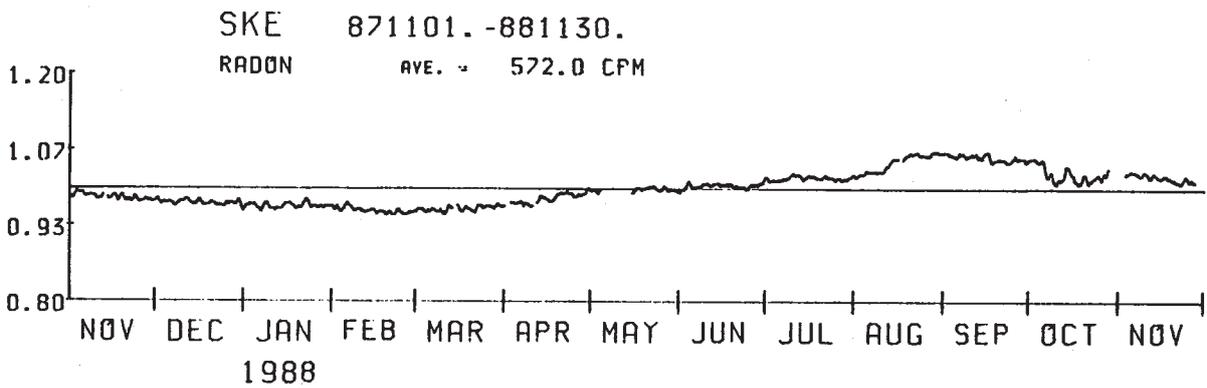
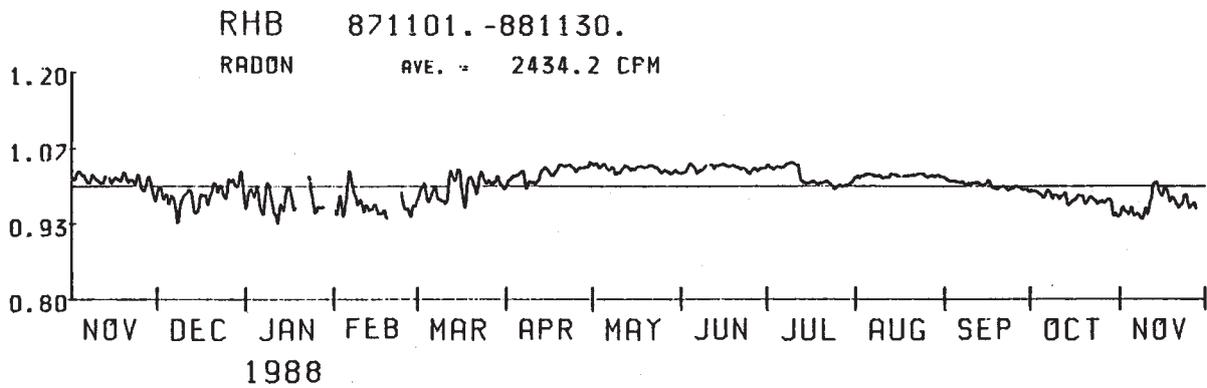
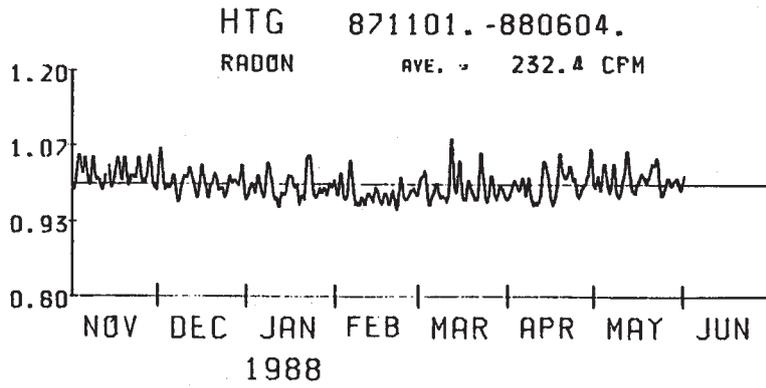
### 参 考 文 献

- 1) 東京大学理学部：伊豆半島におけるラドン観測(VI)，連絡会報，39 (1988)，211 - 212.



第1図 伊豆半島の地球化学観測点の位置

Fig. 1 Locations of geochemical observation sites in the Izu Peninsula (HTG:Kannami, SKE:Nakaizu 1, RHB:Nakaizu-2).



第2図 HTG (函南), SKE (中伊豆第1), RHB (中伊豆第2) における地下水中のラドン濃度変化 (1987年11月 - 1988年11月)

Fig. 2 Temporal variations in the radon concentration in groundwater at HTG (Kannami), SKE (Nakaizu-1), RHB (Nakaizu-2) (November 1987 - November 1988).